

Vol.1 「ソフリエ」入門

最近、テレビや新聞で見かける「ソフリエ」という言葉。

ワインのソムリエの新種か?と思いきや、

実は、「積極的に孫育てに参加する祖父!」

を指す言葉でした。おじいさんと育児..という

意外な組み合わせが気になり、

「ソフリエ」の名付け親である

NPO「エガリテ大手前」代表の

みなさんに、「ソフリエ」誕生の背景と、

今どきの祖父母世代の孫育てについて

意見を伺いました。



NPO「エガリテ大手前」とは?

大阪府立大手前高校の首都圏在住卒業生有志による、男女共同参画促進をねらいとするNPO団体。高校の前身が女子校で、共学になってからも生徒名簿は女子名を先にしていたというリベラルな校風の中、生徒たちにも自然と男女共同参画の意識が根付いていたことから、有志が集まってこの団体を設立。メンバーは昭和48年の卒業生を中心に男女合わせて約40名。男女共同参画社会の推進に向けて、調査研究、提言、講演、出版など多彩な活動を展開中。「ソフリエ」講座も活動の一環として2010年春にスタートした。



左から古久保俊嗣さん、竹村泉さん、金井則之さん。みんな高校時代の同級生とあってチームワークも抜群です。

育児におじいちゃんも参加しよう!

「ソフリエ」講座が
生まれたきっかけは?



私たちの団体で子育て、孫育てに関する意識調査を行ったところ、60代以上の男性の8割が孫育てに参加したいと思っていることが分かりました。団塊世代の男性は高度経済成長長期に仕事中心の生活を送ってきた人が多く、子どもの育児にあまり関わっていません。その反動なのか、時間のゆとりができた今、孫の世話をしたいという欲求が高まっているようです。そこで、育児支援を必要としている若い世代への助っ人として、おじいさん世代の育児を社会的に推進していこうと考えました。

おじいさん限定で、
おばあさんは対象外?



女性は若い頃に育児を十分に経験しているため、もう一度育児に関わりたという気持ちには少ないようです。それに忙しい日々を送っている方が多いので、これからの孫育ては男性の出番かな、と。



「ソフリエ」ハンドブック

育児に必要な知識や技術をおじいさん世代の目線で編集したソフリエハンドブック。食事作りやおむつ替え、お風呂の入れ方、抱っこなど実践的なノウハウを豊富に盛り込んでいます。現在はネット上でのみ販売。

(NPOエガリテ大手前
代表 古久保俊嗣さん談)

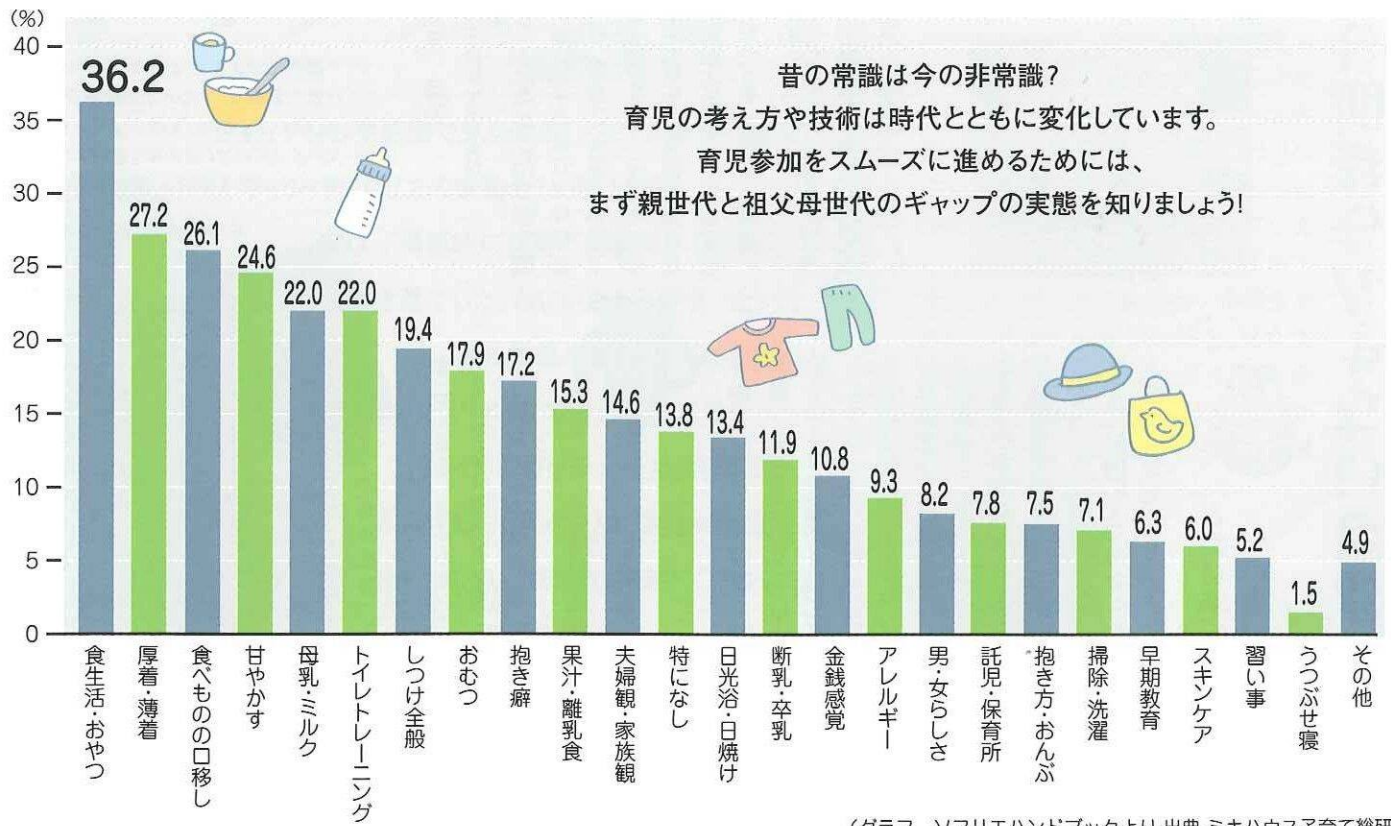
「ソフリエ」が増えると、
育児に対する男性の意識も
変わるのでしょいか?



育児を体験すると、自然と家事能力が高まります。炊事や掃除ができるようになれば生活面でも自立でき、男性の老後のためにもプラスになると思います。また女性が育児と家事、仕事を両立する苦労もわかりますから、男女共同参画の意識も進むのではないのでしょうか。

連絡先
NPOエガリテ大手前
http://egaliteo.com
tel 090-6947-6940
(古久保俊嗣さん)

親世代が感じる、祖父母世代との育児ギャップ



昔の常識は今の非常識？
 育児の考え方や技術は時代とともに変化しています。
 育児参加をスムーズに進めるためには、
 まず親世代と祖父母世代のギャップの実態を知りましょう！

(グラフ ソフリエハンドブックより 出典 ミキハウス子育て総研)

☆祖父母の心得…育児ギャップ解消のコツ☆

考え方の違いはあれど、
 赤ちゃんを愛しく思う気持ちはみんな一緒です。
 世代間ギャップを感じたら、
 まずは育児のベテランである祖父母世代が一步引いて、
 親世代の気持ちを汲んであげましょう。
 家族だからこそその摩擦や衝突もありますが、
 それらを乗り越えて行く中で家族の絆も強まっていくはず。
 赤ちゃんの育児を通して、
 親子3世代が仲良く成長できるといいですね。



世代間には必ず
 考えの方の違い
 はあるものと前
 提して考える。

実の娘とのトラブルが意外に多
 い。お嫁さんに比べて実の娘の場
 合はお互いに感情を出しやすい。
 実の娘に対してもお嫁さんと向
 き合うつもりで接してみる。

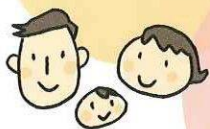


まず両親の考え方を
 最優先。祖父母の意
 見を押し付けない。

産後6ヶ月までは
 赤ちゃんだけで
 はなく母親のケ
 アも大切に。

「今の育児は昔に比べてラ
 クになった」という無意味
 な被害者意識を持たない。
 世の中が進歩して便利に
 なってよかったと考えるよ
 うにする。

育児法が時代とと
 もに進歩するのは
 当然だと考える。



「昔は〇〇だった」
 と言わずに、育児
 書や育児雑誌を参
 考に話す。



赤ちゃんの健全育成
 という共通の目的が
 あれば、ギャップは
 必ず乗り越えられる
 と信じる。

